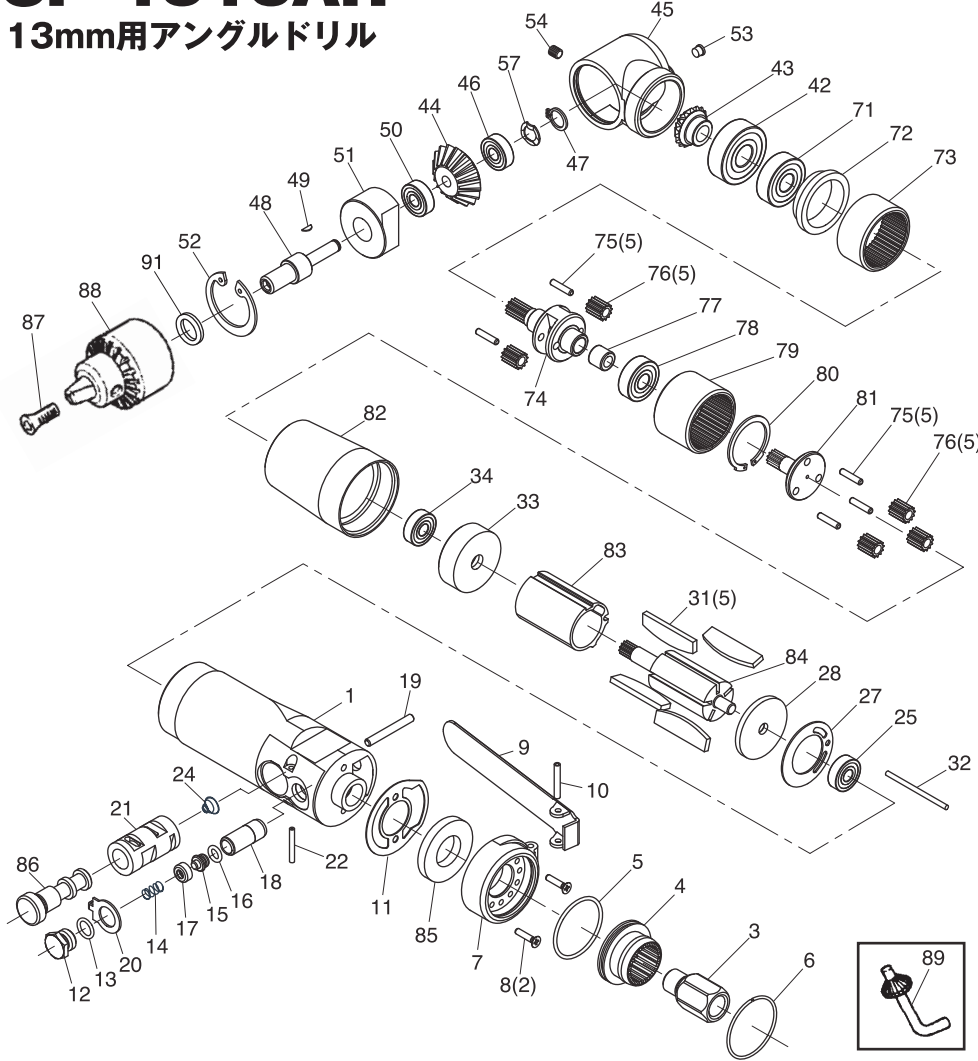


部品分解図

SP-1513AH 13mm用アングルドリル



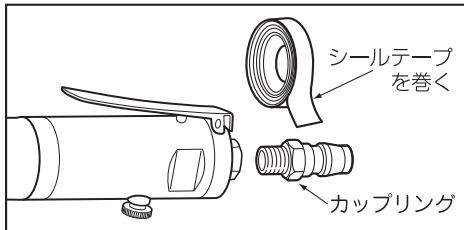
パーツリスト

番号	パーツNo.	名称	個数
1	513AH-01	モーターハウジング	1
3	513AH-03	インレットブッシング	1
4	513AH-04	デフレクター	1
5	513AH-05	オーリング	1
6	513AH-06	デフレクターストップリング	1
7	513AH-07	ハウジングキャップ	1
8	513AH-08	スクリュー	2
9	513AH-09	スロットルレバー	1
10	513AH-10	スプリングピン	1
11	513AH-11	ハウジングガスカート	1
12	513AH-12	バルブスクリュー	1
13	513AH-13	オーリング	1
14	513AH-14	バルブスプリング	1
15	513AH-15	バルブ	1
16	513AH-16	オーリング	1
17	513AH-17	オーリングリテーナー	1
18	513AH-18	バルブブッシング	1
19	513AH-19	バルブピン	1
20	513AH-20	リバースリテーナー	1
21	513AH-21	リバースブッシング	1
22	513AH-22	スプリングピン	1
24	513AH-24	リバーススプリング	1
25	513AH-25	ボールベアリング	1
27	513AH-27	モーターガスカート	1
28	513AH-28	リヤエンドプレート	1
31	513AH-31	ローターブレード	5
32	513AH-32	モーターピン	1
33	513AH-33	フロントエンドプレート	1
34	513AH-34	ボールベアリング	1
42	513AH-42	ボールベアリング	1
43	513AH-43	ピニオン	1
44	513AH-44	ギア	1
45	513AH-45	アングルハウジング	1
47	513AH-47	リテーナーリング	1
48	513AH-48	スピンドル	1
49	513AH-49	キー	1
50	513AH-50	ボールベアリング	2
51	513AH-51	ベアリングケース	1
52	513AH-52	リテーナーリング	1
53	513AH-53	ボールキャップ	1
54	513AH-54	セットスクリュー	1
57	513AH-57	ウエーブワッシャー	1
71	513AH-71	ボールベアリング	1
72	513AH-72	スペーサー	1
73	513AH-73	インターナルギア	1
74	513AH-74	スピンドル	5
75	513AH-75	アイドルギアピン	5
76	513AH-76	アイドルギア	5
77	513AH-77	ニードルベアリング	1
78	513AH-78	ボールベアリング	1
79	513AH-79	インターナルギア	1
80	513AH-80	スナップリング	1
81	513AH-81	ギアスピンドル	1
82	513AH-82	ロックリング	1
83	513AH-83	シンダー	1
84	513AH-84	ローター	1
85	513AH-85	マフラー	1
86	513AH-86	リバースバルブ	1
87	513AH-87	スクリュー	1
88	513AH-88	ドリルチャック (K-6)	1
89	513AH-89	チャックキー (K-6)	1
91	513AH-91	チャックスペーサー	1

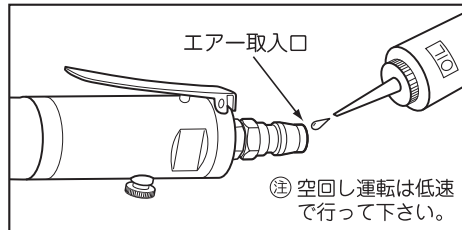
改良のため、仕様を変更する場合があります。

ご使用方法 SP-1513AH

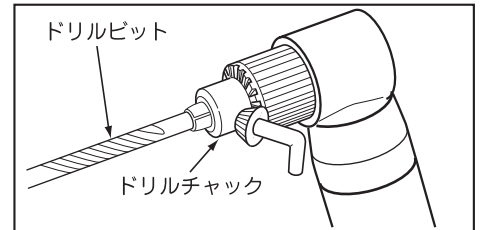
1. カップリングのネジ部にシールテープを巻きつけ、エア漏れのないように、エア取入口にしっかりと取り付けて下さい。



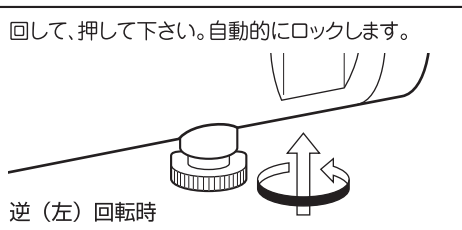
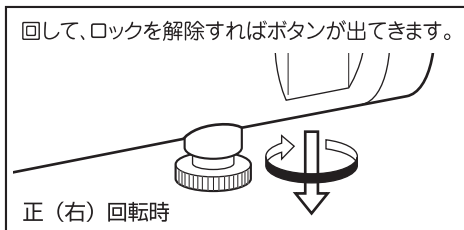
2. 作動前にエア取入口より、スピンドル油がタービンオイルを数滴入れて、軽く空回し運転を行い、可動部分に油をなじませて下さい。



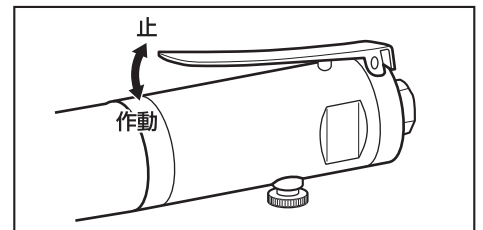
3. 給油が終わったら、いったんエアホースを取り外し、ドリルチャックにドリルビットを奥まで差し込み、しっかりと固定して下さい。



4. このドリルは正逆回転機能付です。ボタンが“出”た状態が正(右)回転です。“押”した状態が逆(左)回転です。作業前に必ず確認して下さい。



5. スロットルレバーで回転の調節を行って下さい。始めは軽く押さえ、“遅い”回転でセンター出しを行って下さい。



SP-1513AH ⚠ 取扱上のご注意

- ドリルビットはドリルチャックに正しく、しっかりと取り付けて下さい。
- ドリルビットは刃先の尖がった鋭いものを使用して下さい。
- 鉄・材木用など材質に合わせたドリルビットを使用して下さい。

- 振動を伴いますので、なるべく連続作業は避け、休憩しながら作業して下さい。
- 能力以上の作業は絶対にしないで下さい。負荷がかかり、手に反動を及ぼすことがあり危険です。